

ビーンズ 通信 vol.97

謹んで新春のお祝いを申し上げます。

昨年は、20周年を迎えたビーンズふくしまの活動に、
ご支援・ご協力いただき、まことにありがとうございます。
21年目を迎える今年も、子ども若者支援に職員一同、
力を尽くして参りますので、何卒よろしくお願い申し上げます。

令和2年 元旦



子どもの 生きる力を信じて

**子どもの貧困対策支援事業の始まり、
そして現在に至るまで**

2014年「子どもの貧困対策の推進に関する法律」が正式に施行されました。この法律は、親から子への貧困の連鎖を止めることができます。その1年後の2015年には、日本の18歳未満の子どもの貧困率13.9%。7人に1人が「貧困の中で生きる子ども」であるという衝撃的な調査結果が報道されました。

福島県はモデル事業とし、2012年から貧困の中で生きる子どもたちへの支援を計画し、ビーンズふくしまが受託、実施してきました。県が策定した事業概要は、親から子への貧困の連鎖を止めることを目的に、貧困家庭の子どもたちの自立に向けた学習支援を提供するという内容でした。

対象家庭にアウトリーチ支援(訪問型支援)を開始した私たちを待ち受けていたのは、想像を遥かに超えた非常に劣悪で、複雑な家庭環境・背景でした。貧困家庭で生きる子どもたちは、孤立状態で、置かれた環境に違和感もなく生きる力が低下した状態でした。

生きる力が低下した子どもたちは、自己肯定感が低く、自殺企図や乱れた性行動、窃盗や傷害事件に巻き込

まれる、殺人未遂事件を起こすなど、学習支援や経済的支援だけでは支援しきれない様々な問題を抱えていました。

私たちは県と何度も協議し、学習支援だけでなく、子どもたちの生きる力を引き出し育てる目的とした、健全育成・生活支援全般へと変えてきました。

子どもたちの自己肯定感醸成を目的としたプログラムの立案、子どもたちを取り巻く環境整備、子どもたちが

●発行日／2020年(令和2年)1月10日

●発行元

特定非営利活動法人

ビーンズふくしま

〒960-8066 福島県福島市矢剣町22-5 2F

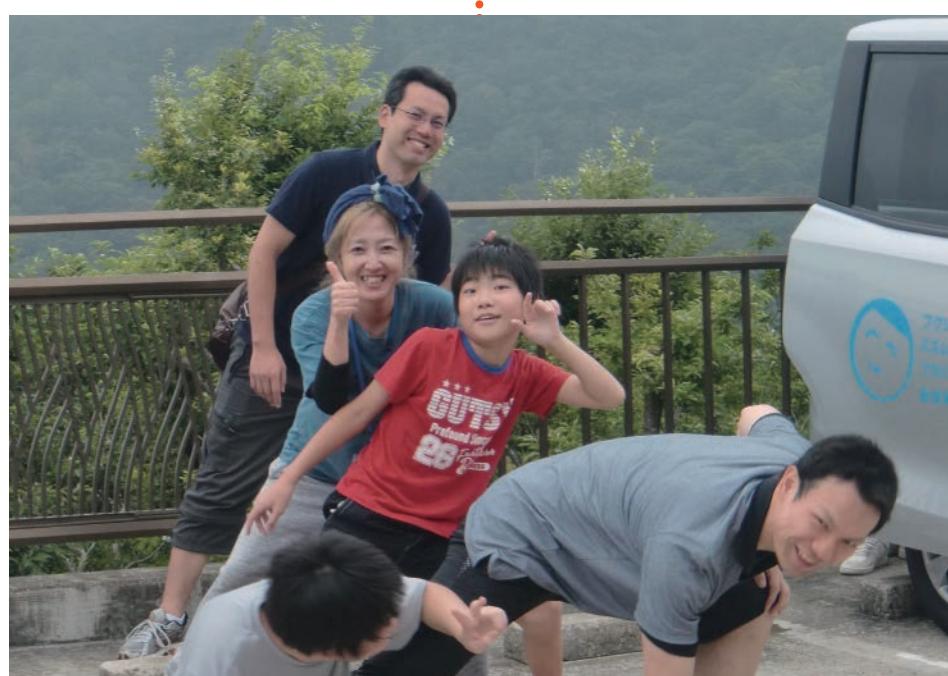
TEL&FAX 024-563-6255

URL <http://www.beans-fukushima.or.jp/>

E-mail info@beans-fukushima.or.jp

NPO法人ビーンズふくしまは、不登校の子どもやひきこもりの青年などに安心できる居場所を提供し、1人1人に寄り添って、ゆるやかな社会参加を促し、その自立を支援する、若者支援の理念に基づいて事業を展開しています。

暮らす地域での支援体制の確立など、課題は山積みでした。しかし、各機関、地域で暮らす人など、たくさんの方と一緒に、どんな時でも、何度も、子どもたちの想いや、ありのままの状態を受け止めて向き合うことを大切にし、活動してきました。



子どもの生きる力を信じて

更に、孤立状態を解消し、他者との交流から自立へ向かう力を育むための取組みとして、集合型活動を開始し、多様な学びの機会を提供してきました。子どもたちは、集合型活動を通じ、他の子どもたちとの関わりの中で様々なことを学び、時には気持ちを揺さぶらせて泣いたり、怒ったり、笑ったり、恋をしたり、そしていっぱい悩みながら色々なことを考えるようになりました。そうして自分の現状と向き合い、自分の人生を自分で決定していく姿私たちに見せてくれました。

私たちは、2012年から継続してきた支援が子どもたちにとって適切かどうかを、常に子どもたちの生きる姿を見て判断し確立してきました。何度も繰り返し、子どもたちの生活する場所へ出向き、直接子どもたちの声を聴いて、子どもたちの生きる姿を見て、自分たちの支援の有効性や必要

性について悩み、考えながら支援を確立してきました。こうした私たちの取組が徐々に広まり、現在は、貧困家庭のみならず、様々な状況下にある子どもたちへの支援依頼がとても多く来ています。そこで、前年度からは、対象枠を設けず、支援が必要な子どもたちにアウトリーチ支援を提供する仕組み創りを強化しています。

また、これらの取組みの有効性、必要性を発信し、子ども支援のノウハウを全国に波及することを目的に、ノウハウ本の作成や、ノウハウ本を活用した講演会、研修会なども積極的に実施しています。

子どもの力を信じて待つ、ということ

どんな状況であっても、どんな状態であっても、今を精一杯生きている子どもたちに対し、私たち大人に何か出来ることがあるとすれば、それは、ただひたすらに、ありのままの子どもの状況、状態を全てひっくるめて受け止めること。そして、子どもの力を信じて待ち続けることだと思っています。子どもの力を信じて待ち続けたあとに、きっと、私たちは子どもの真意に近づけるのではないかと思っています。

子どもたちは、信じて待っていてくれる大人がいることを実感すると、自分の言葉で自分の気持ちを一生懸命伝えてくれるので。それが子どもたちの生きる力につながっていく、ということを私たちは7年間の子どもたちとの関わりの中で、子どもたちから

何度も教えてもらいました。

生きる力を十分に備えた子どもたちは、本来、子どもが生まれながらに持つ知識欲を存分に活かし、これから的人生を自分の手で切り拓いていける力を持っています。この力こそが、貧困の連鎖を打ちきるための大きな力だと確信しています。

私たちはこれからも、いつもと同じように子どもたちの力を信じて、待っている子どもたちの元へ会いに行きます。



福島県ひきこもり支援センター

社会からの孤立問題を解決するために ビーンズふくしまとして実践する、ひきこもり支援

子ども若者支援を担ってきたビーンズふくしまは、福島県ひきこもり支援センターを受託して6年目を迎えています。

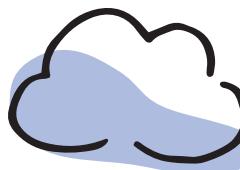
昨年3月に、『8050』と言われる40~64歳のひきこもり状態の方が、61.3万人いるという内閣府からの発表があり、15~39歳のひきこもり推計数54.1万人に加えると100万人を越えるひきこもり状態の方々がいることが明らかになりました。

一言で「ひきこもり」と表しても、その状態は十人十色であり、ひきこもるに至った背景やその後の生き方も全て異なります。

そして、ひきこもりの当事者は孤立状態にある中で、孤独や不安、恐怖等の様々な“思い”を抱えています。ひきこもり支援センターでは、ご本人の「現状を変えたい」という“願い”を受けとめながら、“願い”的反対の側面にある“思い”に寄り添い、その方の

状況に合わせて社会への繋がり先と一緒に考えるという生き方支援を行っています。また、そうしたご本人を支えるためにも、同じく孤立状態にある家族支援を地域の関係機関と連携し、継続して実施していくことも必要です。

ご本人やご家族、一人ひとりに伴走しながら社会との繋がりを再構築し、孤立状態を解決していくこと、あわせてご本人やご家族を支えるしくみを地域の支援者と共に創り、そのフォローアップをしていくことが、ビーンズふくしまが担うひきこもり支援センターとして今後求められていく役割であると考え、スタッフ一同、日々の業務に励んでいます。



「親と子の不登校体験者の話を聞く会」

2018年度の文部科学省の調査によると、全国の不登校の児童生徒の数は16万人を超えたと発表されました。学校に行きにくさを感じ苦しい思いをしている多くの子どもたちや、悩んでいる多くのご家族に、ビーンズふくしまがこの20年間の活動から学んできた経験を伝え、少しでも楽な気持ちになってもらいたいという想いで、「親と子の不登校体験者の話を聞く会」を実施しました。実際に不登校を経験したフリースクールの卒業生2名と、不登校を経験した子どもの親2名に、不登校経験談や、当時の気持ち、そして今悩んでいる方へのメッセージなどを、思い思いの言葉で語っていただきました。

不登校で悩むご家庭に届けたいメッセージ

不登校に至った経緯は、人間関係のトラブルからだったり、勉強や部活に頑張りすぎたことでのエネルギー不足だったり、クラス替えが要因だったりと様々です。一般的には学校に行けないことは甘えと考えられるがちですが、決して子どもたちの甘えではないのです。本人たちは学校に行けないことの罪悪感、学校へ行けないことへの焦りや申し訳なさを感じていることが多いのです。また、親も心配し不安を感じながらも、どこに相談すればいいかわからない、ということも少なくありません。子どもはもちろん、親も、まずは安心できるところに繋がっていくことが大切なことだと思います。

不登校の子どもたちが次のステップに動き出すためには、安心することができ、エネルギーをためる

ことができる環境(フリースクールや家庭などの安心できる居場所)が必要です。そして、その子の力を信じ、「今」のありのままを認める家族や周りの大人口や仲間の関わりが必要なのです。

しかし、親の立場からは、無理に学校に行かせるのではなく、安心できる場で休ませることが大切だとわかりながらも、「学校に行かなければ・行かなければ」という固定観念を変えていくには、時間も必要であることが語られました。

これからに向けて

「普段直接聞けないことが聞けて良かった」「悩んでいるのは自分だけではないことに安心した」などの感想もいただきました。今回、ご参加いただいたことで、フリースクールに繋がった方もおられますし、親の会に繋がった方もいらっしゃいます。これからも1人でも多くの方が安心できるよう、情報を発信し続けていきたいと思います。

お子様のことで何か気がかりなことがありますたら、お気軽にお問い合わせください。



開催しました。



●ビーンズふくしまのホームページ こちらへアクセス

<http://www.beans-fukushima.or.jp/>